

産業革命期(19世紀前半)のイギリスの児童・女子労働の比重
 - エンゲルス・イギリスにおける労働者階級の状態からノート-

問題意識 第8章労働日の第3節以降、当時の長労働時間の状況と、それに対する工場法、労働時間短縮の歴史的経緯が述べられています。そのなかで、特に児童および婦人(女子)労働の苛烈な実態がとりあげられています。労働時間の規制が児童・女子労働の側面から進んだ背景、当時の児童・女子労働の位置と比重について、エンゲルスのイギリスにおける労働者階級の状態の中から取り上げてみました。理解を深めるための素材として参考に供します。(全集はME全集)

全集1 (1839~1844)

617 P イギリスの状態 (18世紀)

- 紡糸や織物を製造するこの四つの(木綿、羊毛、リンネル、絹)工業部門は、このようにして全体的に革命化された。家内労働にかわって、大きな建物のなかでの共同の労働が登場してきた。手労働にかわって、蒸気の動力と機械の作業とがあらわれた。いまや機械をつかうことよって、8歳の児童一人が、以前に20人の成人男子がやっていたよりも、多くの仕事をするようになった。60万人の工場労働者—そのうち半分が児童であり、さらに婦人が半数以上を占める、—は1億5000万人の仕事をする。

しかし、これは産業革命の端緒にすぎない。すでにみたように、紡績と織布が進歩したため、染色、捺染、漂白が拡張され、その結果、力学と化学に援助がもとめられるにいたった。捺染に蒸気機関と金属シリンダーが応用されてからは、一人の人間が二百人分の仕事をする。

全集2 (1844~1846)

341 P イギリスにおける労働者階級の状態 諸結果

- 就学義務はどこにも存在せず、本来の工場では、あとで見るように、ただ名目上存在するにすぎない。そして1843年の国会の会期中に、政府がこの見せかけの就学義務を実施しようとしたとき、労働者ははっきりとこの就学義務にたいして賛成を表明したのに、工場ブルジョワジーは全力をあげてこれに反対した。もともと大多数の子供は、一週間全体をつうじて工場と家庭で働いているので、学校へ通うことはできない。昼間働いている子どもたちのいくことになっている夜学校には、ほとんどまったく通う者はいないか、いてもその者の役にはたっていない。

423 P 同上 その他の労働部門

- 工場法の適用を受ける四つの労働部門は、布地から衣服までの製造を目的としている。これらの工場から自分の原料を受け取るような労働者、靴下編工の労働者について児童雇用委員会の報告は次のように報じている。長い労働時間は、作業そのものの性質から生じる座ったままの生活様式や、目をつかれさせることと一緒にあって、一般に身体を虚弱にし、とくに視力を弱くするのが普通である、と。非常に強い光がないと、夜は仕事ができない。そこで編工は、光線を集中するためによくガラスのほやを使うが、これが目を非常に痛める。14歳になると、ほとんどすべての編工は眼鏡をかけなければならない。糸巻きと縫いものをしている子供たちは、ふつうその健康と体質とに、いちじるしい障害を受ける。彼らは、6歳、7歳、あるいは8歳の頃からちっぽけな、うっとうしい部屋で、10時間ないし12時間も働く。

424 P 同上 その他の労働部門

- ー レース製造業は、厳格に行われている分業によって非常に複雑な仕組みになっていて、沢山の部門をもっている。まず、撚糸を糸巻きにまかねばならない。この仕事は、14歳以上の娘たちの手で行われる。(糸巻き工)。つぎに、糸巻きが、8歳以上の少年たち(糸通し工)の手で機械にかけられる。糸は、機械一台につき平均1800個ある細い穴を通され、その所定の場所にみちびかれる。レースは、幅のひろい布のようになって機械から出てきて、ほんの幼い子供たちの手で、つなぎの糸が抜き取られ、一枚一枚のレースに仕分けられる。これは、レースほどこき、とか、レースぬき、とかよばれ、子供自身はレースの解き手(レースランナー)とよばれる。・・・中略・・・だが、もっとも不健康なのは解き手(ランナー)の仕事である。彼らは、たいてい7歳、それどころか5歳または4歳の子である。委員グレインジャーは、2歳の子供さえこの仕事にたずさわっているのを目撃した。

476~477 P 同上 鉱山プロレタリアート

- ー コーンウォルの鉱業では、約1万9000人の成年男子と、1万1000人の婦人と子供とが、一部は坑内で、一部は坑外で使用されている。鉱山そのものの内部では、ほとんどの成年男子と12歳以上の少年だけが働いている。・・・中略・・・小さいときから鉱山に働きに行く男子は、坑外で働く婦人に見られるほどの肉体的発育もしていないこと。多くの者は年若くして奔馬性結核で死亡し、またたいていの者は、働き盛りに長期の肺病で死んでしまうこと。彼らははやくふけこんで、35歳から45歳のあいだではたけなくなる。坑外作業、鉱石の破碎と選別とは、娘や子供たちによっておこなわれ、この作業は戸外でおこなわれるので非常に健康的である、とされる。

478~479 同上 鉱山プロレタリアート

- ー ほぼおなじような方法で採掘されている炭鉱および鉄鉱山には、4歳、5歳、7歳の子供が働いている。これらの子供たちは、採掘された鉱石を、切羽から馬車道や本堅坑まで運搬したり、採掘場の各種の部分で仕切っている通気ドアを、労働者や鉱石が通る時に、ひらいたりとじたりするためにつかわれている。この扉の番には、たいてい一番小さい子供がつかわれるが、これらの子供たちは、せまくて、たいていじめじめした坑道に、毎日12時間も暗闇のなかでじっとすわっていなければならない。

石炭や鉄鉱石の運搬は非常に辛い仕事である。この骨のおれる仕事には、比較的年のいった子供と成人した娘が採用される。採掘の仕事は、おとなの男子か、それとも16歳以上の強健な若者によっておこなわれ、これも同じように疲労のはげしい仕事である。

- ー ふつうの労働時間は11時間から12時間であって、もっと長いこともしばしばあり、スコットランドでは14時間に及んでいる。また、この二倍も長く働くことだってしょっちゅうある。全部の労働者がぶっつけに24時間も、それどころか36時間も地下にもぐっていて、働くこともめずらしくない。

以上